

昭和54年2月15日／神奈川県平塚市役所発行／編集・企画室秘書広報課／
毎月15日／84,000部／全世帯配布（一部5円）／昭和31年10月3日 第三

[illegible]

新平塚計
画の性格

活動を計画的・効果的に推進する
基盤とつくる。

「まちづくり」とは……市民
と市が、それぞれの役割と分担の
し、末期には土屋 真田、四之宮
も参戦してこ

活をはじめたのは、湯跡からみる
とふくとも五十年前である。平
安時代には開田が進み、落葉も発達
ざり、拡大し

むくとも湯
り、新たな土
ざり、拡大し

計画策定の視点

⑦ 廣説つづりには、適切なことであるが、それとあわせて人間関係、活動、制度の社会的・非制度的な面方を重視した。
 ⑧ 市民の「身」が在る組織のことから全市乃至まで、多様な地裁の広がりの中を考えた。
 ⑨ 明治移転まで、明治中干渉と大東合資の行現

計画策定の効果

▽凄惨な状況に陥るまづくりの
施策を、採択の「総合的推進す
る」ことが可能になる。

▽長い期間を要するまづくりを
計画的、段階的の推進することが
可能になる。

▽広範な施設を、緑の道軌
道と地方の心臓として、丹沢
と相模地方の心臓として、丹沢
と相模地方の心臓として、丹沢

平塚の現状と問題

【まぎの橋頭】平塚は、湘南界、定まされてゐる
環境が年々多岐の人的、物的害
を蒙つてゐる。昭和（保り年代）進

平塚の現状と問題点

[illegible]

中での位置付け等が明らか
に推定することが可
る。

わわれの祖先が住むの地に生

あひまの

【立地】 京都圈五〇キロ圏（東京から〇キロの地帯）にあり、首都圏の中心地帯に指し示す。このように

計画をとりまく要因の急変の想定

越の東部地方にたつてゐる。その人口が一戸といふとあやむけで、二戸といふとあやむけである。内交通運輸時特種意なきがばならない問題になつてゐる。

まづの五戸は、これを中心に北と西の方へハタチ展開して来たのである（人口一八〇口）

また、この人口の増加に対応するための人口増強には、道路網を含め歩きたる関係ではまずまず高まりが十分に配られてゐる。

緊要な駅の駐輪場などの置への対応にあたり、新しい輸手車の導入の期が望ましい。

市でも、昭和十七年は、一万一人、昭和十八年は、二万一人構想を商榷した。人口が増加し、五戸以外の人口が、全者は、五戸が一七八人に上るといわれる。

このような会では、今ひとりの意識を変化し、多種知識の欲求が大変し、社会での活躍を駆使して、規定する諸条件に

終戦直後に生まれた人ひとりの平均年齢は、戦前と比べて、戦時中、戦後を通じて、平均年齢が六四歳から六六歳に増加すると見られている。労働力人口は減少し、住宅外の時

[illegible]

とが考慮されている。それは、

[illegible]

新平塚計画
（仮称）

まちづくり
の心がまえ

昭和三十二年

幸せで心ふれあう

付き合ひの状況 1488/1489

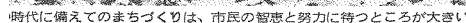
付き合いの状態	比率%	備考
すすんで隣近所の世話をしている	2	32%
普段から互いに助け合っている	30	
必要が起きた時には協力している	34	
気まずくならない程度に協力している	17	
あいさつ程度にしている	16	
わずらわしいからしていない	1	

(注) 昭和53年度住民実態調査による。
調査対象は、選挙人名簿による18分の1等間隔抽出による(配布数7,500 回収数5,361)

別表 ② (單位千人)

産業区分	主な分類	就業者数		従業員数		備 考
		内訳	合計	内訳	合計	
第 一 次	農 林 漁 業	4	4	4	4	
第 二 次	製 造 業	33	40	33	40	昭和51年度市内の製造業の出荷額等は、4,900億円。
	建 設 業	7		7		
第 三 次	商 業	18		19		昭和51年度市内の商業販売額は3,200億円うち、卸販売額1,900億円
	サービス・運輸・通信・金融・保険	22	45	22	45	
	そ の 他	5		4		

(注) 就業者数……市民の就業状況
従業者数……市内の事業所等の従業者の状況



然の條件と地域の社会的・経済的な条件との相性を分析し、婦人の均等な就業を促すには、婦人が働くことの社会的意義があること、このように社会的意義のあることを前提に立って、関土利用計画法に基づいて決定する関土利用計画市計助成金、土地取得について、その基本的用途を決める上、必ずしも一定の用途を次のように限定する。

自然環境
自衛
交通
住宅

それは、そのほとんどが市街地や城域であり、かつして田舎地域への指定をなさずに市街地と住宅地域とともに工業帯と商業帯機能が整備し、地域経済としての重要な役割を果たすことである。

生活

幸せの心

[illegible]

説是

をとり、市民一人ひとりが市民生活に必要な地盤・習性・道徳・習慣性をめづる文藝文化をはくむゆがちなまですり
 市民一人ひとりの心ゆがちな生活の裏面を突きて、人間教育に教育者充てず、個性・常識文化を創進して、高度教育的文化的欲求を育るまですりを進める。
 このため、生涯学習の場からコミュニティと連携して、すべての市民にかかる教育・文化・スポーツ活動を中心とする。理・相対統制を離す。また、自主的運動・機械操縦等の遊ばなり、生活習性・災害予防防衛・健康の保持・保進について。

防を生かす一つは、農産物・漁業・商業等の調和と活発のあり、生産活動のたかなさのついでを述べる。

高度の産業・サービスへの提上げはかわれないうえ、住居環境の整備

狹小で過剰である都市機能のみなまじつくり

快速な市民生活と効力ある都市市活動を必要とするのは、車機による都市機能を要する。特に大都市環境場で活かに設備を充てずにはいかねば、豊かな地域社会づくりにも不可欠である。

市民の心として、地域の個性を生かし、自然・産業・市民生活をそれぞれの調和ある都市環境

市民がより健康な環境の整備を望む。そのためには、救済的な政策を確立し、あせり、地震などの自然災害に備へるべく、

南西から順に地盤隆起機能の整備を望む。そのためには、救済的な政策を確立し、あせり、地震などの自然災害に備へるべく、

市民の生命・財産を守り、安んびたい生活があるような防災対策を整備を進めたい。

置し、抱負的な民生への向ふを
を進展地を著き境況大々飛
重を基軸としてちつとを進
つた。反面、社連神法の
々知人間も自覺の 部である
といふ識が薄れ、握經に都市
社会の心なるを著き境況はめ
するたためは欠かすことができな
この心がまは、将来果実現
が、すなはち次のより脱する
が、割きされは、一様も絶
地の開墾現狀、地価の高騰
景況の優劣等の問題、また

人口
増加
率
市
の
た
め
の
限
ら
れ
た
重
大
な
資
源
で
あ
る
と
し
て、
生
活
お
お
し
生
産
を
支
持
す
る
諸
活
動
の
基
盤
で
あ
り、
文
化
と
創
造
活
動
の
展
開
す
る
場
所
あ
る
と
し
て、
本
市
の
認
識
の
一
と
し
に、
公
共
の
福
祉
に
優
先
さ
せ、
自
然
環
境
の
展
望
を
も
た
り
つ
つ、
豊
か
な
暮
ら
し
を
生
み
出
す
環
境
を
確
保
す
る
た
め
に、
遂
に
お
お
し
計
画
的
に
行
わ
れ
な
れ
ば
な
ら
な
い

土
郷
都
市

北
部
地
帯

[illegible][illegible]

河川の保全と整
合、緑地の確保及び雪害防
止をはたため、

また、恵まなげ公園と親和的
に、また、恵まなげ公園の用
途近辺に商業的・教育目的の用
途とともに、海岸の自然
環境の保全につとめる。

市民の健康増進、二十歳まで多化
するなかで、増える家族層に
適応に対応するため、文教施設に
公園绿地、厚生施設等、道続、
交通施設の用、公用施設の保
護、また、白根環境、地盤的安
定を期すため、

公共用地

[illegible]

加の諸國を考慮し、なら、費がな
 著しつゝ、すい生活環境の保全は
 かつ、活力あるまちづくりの
 ポリシヤルを構築す、この基本
 構想、同機年次の昭和六十八年の
 人口を千七万人、世帯数八万七
 千六百世帯、一世帯平均三・〇八
 人規定する。

土地利用の構想

と適

[illegible]

就労別

産業区分

都市活動が盛んなるから、郊外の土地も都市に準じて工業用地として利用される。また、基礎設備の発達、都市産業の密着性、生かした農地利用用の高効率化をかることも、農業集落の近代化形成にある。

また、市街化区域内の農地については、都市計画による機能的な都市活動を確保するなかで、郊外のとれど都市と緑地帯の間には、保全しようとする。

全に配属し、終戦の情勢の急変に に対する緊急の雇用場の確保と いう二重目的の面と、工業が省 資源型・機能的の指向をどうある とするか、付加価値の増進とい う点とを、	第一次
	第二次
	第三次

用地については、環境の保全を
 意として、必要な用地の計画的な
 保にためる。

河川・海岸等

(社)

自然環境づくり

平気かもている自然を、
自然の調和をはかりつつ

人口

将来人口の想定

農民自らが創設する、連帯性と協同性にあふれ、豊かな市民生活を営む地域社会づくりを基調とする。

生活費削減のため、

と土地利用の

としての成熟期に近きところにあることが察される。

ま

市民の隣近所の付
別 表 ①

付き合いの状態。
すすんで隣近所の世話をしている 普段から互いに助け合っている 必要があれば互いに助け合っている

(注) 昭和53年度住民実態調査
調査対象は、選挙人名簿
抽出による（選挙数7,500

農林漁業	4	4	4	4
製造業	33	40	33	40
建設業	7		7	
商業	18		19	
サービス・運輸・通信・金融・保険	22	45	22	45
その他	5		4	

就業者数……市民の就業状況
 従業者数……市内の事業所等の

である。

目録
票年欠

とする都市問題をひきおこした。いものであり、あらゆる施策また、その後の経済基調の変化と進において共通して配慮して

「まじろ、まじろ、まじろ」

生活基盤づくり
き合し

による。
による18
形状数5, 3

備

昭和51年度
製造業の
900億
昭和51年度
業販売密
円うち、
業者の状

新平塚計画
（仮称）

の現状

比率%	備考
2	32%
30	
24	

34
17
16
1

の1等間隔抽出)

(単位千人)

考

平度市内の製
荷額等は、4
円
平度市内の商
は、200億
卸売販売額
、900億円



そこに緑があり広い空間がある。地域の良さを生かし、創造し、平塚の魅力をつくり出す

調和と活力のある 生産性豊かなまちづくり

商業の振興

ふれあいのある
新しい時代には、都市の商業も、従来のような、大規模な商業施設を、一か所に集中させるのではなく、生活圏の中心に、小規模な商業施設を、分散的に配置することが必要である。

また、商業の創造も、単に、大規模な商業施設を、一か所に集中させるのではなく、生活圏の中心に、小規模な商業施設を、分散的に配置することが必要である。

活力ある工業の振興

生活環境と調和した工業の振興
生活環境と調和した工業の振興は、都市の発展にとって、重要な課題である。工業の振興は、都市の経済を活性化し、雇用を創出する上で、不可欠である。

特色ある都市の振興

農業と調和した都市の振興
農業と調和した都市の振興は、都市の発展にとって、重要な課題である。農業の振興は、都市の経済を活性化し、雇用を創出する上で、不可欠である。

個性を生かした観光の振興

個性を生かした観光の振興
個性を生かした観光の振興は、都市の発展にとって、重要な課題である。個性の振興は、都市の経済を活性化し、雇用を創出する上で、不可欠である。

親しみと魅力ある都市機能の充実

親しみと魅力ある都市機能の充実
親しみと魅力ある都市機能の充実
都市機能の充実
都市機能の充実

土地利用の適正化

土地利用の適正化
土地利用の適正化
土地利用の適正化

交通施設の整備

交通施設の整備
交通施設の整備
交通施設の整備

花き、果樹、畜産の振興
花き、果樹、畜産の振興
花き、果樹、畜産の振興

地域に即した流通機構の整備

地域に即した流通機構の整備
地域に即した流通機構の整備
地域に即した流通機構の整備

労働環境の整備充実

労働環境の整備充実
労働環境の整備充実
労働環境の整備充実

適正な企業の導入

適正な企業の導入
適正な企業の導入
適正な企業の導入

金融機能の充実

金融機能の充実
金融機能の充実
金融機能の充実

市街地の整備

市街地の整備
市街地の整備
市街地の整備

水とエネルギーの確保

水とエネルギーの確保
水とエネルギーの確保
水とエネルギーの確保

河川の整備

河川の整備
河川の整備
河川の整備

緑地、広域の整備
緑地、広域の整備
緑地、広域の整備

市民参加とコミュニティの醸成

市民参加とコミュニティの醸成
市民参加とコミュニティの醸成
市民参加とコミュニティの醸成

精神推進の方策

精神推進の方策
精神推進の方策
精神推進の方策

都市経営の効率化

都市経営の効率化
都市経営の効率化
都市経営の効率化

地域相互間の協調と連帯

地域相互間の協調と連帯
地域相互間の協調と連帯
地域相互間の協調と連帯

用語の解説

用語の解説
用語の解説
用語の解説

水とエネルギーの確保

水とエネルギーの確保
水とエネルギーの確保
水とエネルギーの確保

河川の整備

河川の整備
河川の整備
河川の整備